

第1回 NITS 大賞（平成 29 年度）エントリーシート

国立大学法人鳴門教育大学教職大学院 福田幸司（大学院生）

A-11

【活動名】 教員のキャリア形成に視座した研修体系

解決すべき課題： どんな問題を解決しましたか？

教員のキャリア形成について、これまでは養成教育と現職教育は分断していると考えられていたことは、上田（1989）が指摘している。しかし、近年になって教職の専門職性や生涯教育の観点から、現在ではかなり改善されてきていると、田中（2014）は述べている。

教員のキャリア形成を段階論的な発達と考えた場合、初任段階、中堅（ミドル）段階、管理職段階の3段階で捉えることが多い。それぞれの段階で求められている資質・能力を教員は習得できているのかと見た場合、十分な効果が見られていない。

目的や背景： 解決すべき課題の背景や、活動の目的をおしえてください

平成 27 年 12 月の中教審答申「これからの学校教育を担う教員の資質向上について」では、教員研修に関する課題として「大学等を含めた関係機関との有機的連携を図りながら、教員のキャリアステージに応じ、教員のニーズも踏まえた研修を効果的・効率的に行う必要がある」と提言している。また、講義形式の研修からより主体的・協動的な学びの要素を含んだアクティブ・ラーニング型研修への転換、教員が学び続けるモチベーションを維持できる環境整備、新たな教育課題に対応した養成・研修が必要とも述べられている。

活動内容： 何をしましたか？

「研修成果活用部門」については、研修のどのような内容を活用して課題解決につなげたかがわかるように記載して下さい。

本県は新しい職として副校長、主幹教諭、指導教諭を設置しており、それぞれの職に対する研修も実施している。このうち、県教育委員会・教育センターと教職大学院が連携して実施している「主幹教諭・指導教諭研修」の受講者、関係大学教員それぞれへの聞き取り調査、教職員支援機構での学校組織マネジメント指導者養成研修の受講内容をもとに、本県の教員研修を見直し、次年度以降の教員研修についての提案を行う。

活動の成果： それによって、どんな成果が得られましたか？

学校組織マネジメント指導者養成研修での学びや主幹教諭・指導教諭への聞き取り調査をもとに、教職大学院の最終成果報告書をまとめ、次年度以降の教員研修についての提案を行う。その中で、より効果的な教員研修計画の立案に寄与する。

アピールポイント（アイデア）： もっとも、がんばったこと、注目したことをアピールしてください。

主幹教諭・指導教諭は、教育委員会・教育センターと教職大学院との連携によって制度設計され、三者の協力体制のもと現在も実施されている。本研修は、年間を通したOJT型である点、教職大学院が組織として研修に全面的に関与している点で先進的な取組であるといえる。また、キャリア形成段階では中堅段階（45歳～56歳、経験年数：20年～33年）に特化した研修である。

主幹教諭・指導教諭研修受講者には、研修満足度や研修活用度の聞き取りは行ったが、学校組織マネジメント指導者養成研修を受講したことにより、主幹教諭・指導教諭に「次年度、主幹教諭（または指導教諭）としてどのような実践をするか」を質問項目に付け加え、今後各自が主体的に取り組むような意識付けを行うべきであったと感じた。

聞き取り調査の回答を分析し、これまでのキャリアで習得している能力と習得が十分でない能力を見極め、習得した能力についてはそれらが活用できるような研修講座を、十分でないものについては習得できるよう計画し、次年度以降への提案を行いたい。